

創エネ神戸 板宿児童館 ソーラーランタンをつくろう！ 2024年8月20日

8月20日、須磨区 板宿児童館にて、「児童館出前エコ教室 ソーラーランタンをつくろう！」を13時10分～15時に開き、小学1～5年生の児童19名が参加しました。

最初に、地球温暖化、二酸化炭素、太陽光発電、「わたしたちにできること エコチャレンジ」、環境ラベルなどについて、パワーポイントにて説明しました。

その後、トレーシングペーパーに思い思いに絵を描いて、円筒形のプラスチックケースの中に装着します。ソーラーライトを円筒形のプラスチックケースの中に装着して完成しました。

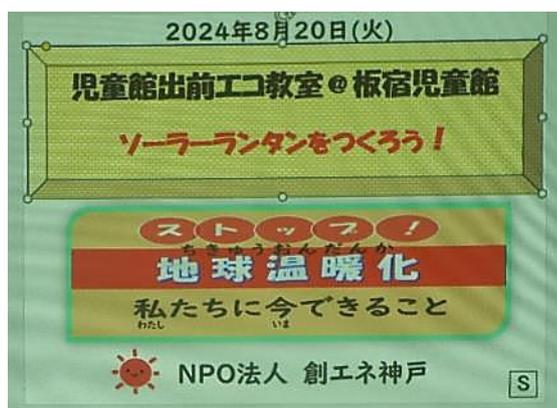
ソーラーライトのソーラーパネルに太陽光を当てて充電、ソーラーランタンが灯ります。

ソーラーランタンの上部を手のひらで光を遮断しますと、ソーラーランタンが美しく灯り、歓声があがっていました。

創エネ神戸は、山田、三上、今橋、小嶋、渡邊、近藤、大高、岡本が参加しました。

今回は神戸市が推奨する環境ラベルの説明が追加されたことから神戸市環境局より西巻課長と橋本係長が立ち会われました。

最初に「地球温暖化、太陽光発電、「わたしたちにできること エコチャレンジ」などについてパワーポイントにて説明しました。



「地球温暖化」で何が起きているの？ なぜ気温が上がっているの？ 二酸化炭素！
自分たちに出来ることは何か？ 太陽光発電、風力発電、水力発電 バイオマス発電

ちきゅう おんだんか けんいん

1. 地球温暖化の原因

にさんかたんぞ
CO₂ (二酸化炭素)

太陽

地球温暖化 温室の中にいる
みたいに暑い!

ちきゅうおんだんか

<https://msp.c.yimg.jp/>

2

す まち
住んでる街がぐちゃぐちゃになっちゃうよー!

大型の台風や線状降水帯のような大雨などの異常気象が増える

5

3. 私たちにできること

① テレビを1日1時間見る時間を減らす

見たい番組だけ見て、
テレビをつけっぱなし
にしない
さくげんりょう
CO₂削減量8.2kg

ねんかん せつやく
年間600円の節約

経済産業省 資源エネルギー庁データによる

8

① ご飯を **残さず** 食べる

しょくひん りょう ねんかん
食品ロスの量は、年間522万トン

政府広報オンラインデータによる

14

にさんかたんぞ
4. 二酸化炭素
だ でんき
を出さずに電気をつくる

さいせいかのう エネルギー
再生可能エネルギー

つかっても、つかっても、なくならないエネルギー

15

さい
再エネ!
さいせいかのう
(再生可能エネルギー)

たいようこう ふうりょく すいりょく バイオマス ちねつ
太陽光 風力 水力 バイオマス 地熱
発電 発電 発電 発電 発電

二酸化炭素を出さずに
電気をつくる

さいせいかのう
(再生可能エネルギー)

16

次に環境ラベルについても説明しました。

グリーン・エネルギー・マーク

カテゴリ
食
海
土
資源
気候変動

地球にやさしいグリーン電力を
一定程度使っていることをあらわ
すマーク

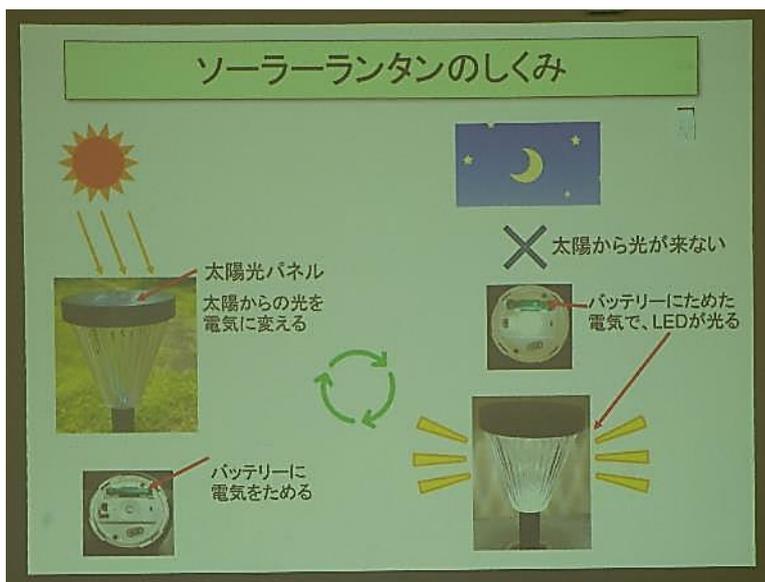
知らないものばかり...意味も分からないですね...今日はこのマークのことを学びます

少し難しい話を真剣に聞いています。

「ソーラーランタン」作り開始です。



最初に仕組みについて説明しました。



部品と用具の確認をしました。



ソーラーライト 黒いボール
円筒形のプラスチックケース
トレーシングペーパー アルミホイル
両面粘着テープ



3種類の見本の絵も準備しました



自分で描く絵の見本を選んでいきます。



トレーシングペーパーに思い思いに絵を描きました。
見本の絵をなぞったりしていました。
色鉛筆で色塗りもしました。



その後、円筒形に丸くして円筒形のプラスチックケースの中に装着しました。

黒いポールにアルミホイルを貼つてから、ソーラーライトの細い先端に取り付けました。
ソーラーライトのライトカバーを取り外して、バッテリーの絶縁用のリボンを外して、組み立て、更にソーラーライトを円筒形のプラスチックケースの中に装着して完成しました

ソーラーライトのソーラーパネルに事前に太陽光を当てて充電してありましたので、ソーラーランタンが灯りました。



世界に一つのソーラーランタンです。

段ボール箱で作った暗室に入れると、ソーラーランタンが綺麗に灯り歓声があがっていました。

最後に「わたしたちにできること エコチャレンジ」の12ページの小冊子を配り、説明をしました。

ほとんどの児童がソーラーランタンを作れて楽しかった！

お日様の力で電気が出来ることを学びました。

環境ラベルについても学びました。

また地球温暖化防止のために、自分で出来ることをこれから行っていきたい。との感想でした。

(作成 岡本紘一)

